

「肝臓診療マニュアル」

兵庫医科大学教授・第1外科 岡 本 英 三

兵庫医科大学講師・第1外科 山 中 若 樹

国立京都病院院長

戸 部 隆 吉

日本肝臓研究会は1965年以来、全国施設の協力のもとに、原発性肝臓症例の集積と追跡調査を行っている。

殊に第4回調査報告(1968-1977年症例)以降、同一項目でコンピュータ解析を行い統計処理した症例は48,000例を超え、各回の報告はわが国の原発性肝臓の特徴と、診断・治療の生きた歴史を示すものとして興味深い。1960年代までは不治の病であった肝臓は、今や治りうる病気となってきたわけである。

この間、兵庫医科大学外科学教室岡本英三教授・山中若樹博士は、常に指導者の立場で、わが国の肝臓診療の第一線で活躍して来られた大先達である。

肝臓、殊に肝細胞癌は、わが国では疫学的特徴から臨床的診断のアプローチが確立され、画像診断の普及

と相俟って、手術・治療しうる時期の肝臓が増加し、「早く見つけて小さく切ろう」という趨勢となってきた。こうした現在の肝臓診療の在り方を確立した大先達の中にも名を連ねるお2人である。

今回、医学書院から上梓されたお2人の連名になる「肝臓診療マニュアル」はA5判、178頁、5,974円の極めてスマートでハンディな書で、診療机の傍らに常に置いて、気楽に読める肝臓診療の手引書である。

本書は、1. スクリーニング、2. 確定診断の手順、3. 画像による肝臓の顔の見方、4. 画像診断のpitfall、5. 経皮的針生検、6. 肝区域診断、7. 肝臓取扱い規約、8. 治療選択の手順と切除適応決定、9. 肝切除の方法とコツ、10. 術前・術中・術後管理、11. 術後フォローア

ップの実際、12. 再発肝臓の治療、13. 肝臓の非切除療法、14. informed consent—患者への説明に必要な情報、の14章から成るが、通読すれば肝臓診断・治療に必要な知識とノウハウがすべて理解できよう。

特に著者らが、読者のために注意すべき点: attention としてまとめられた17項目は、著者らの永年の臨床で得られた貴重な経験をもとにして書かれた珠玉のエッセンスとも言えるべきものであろう。

本書は、外科のみならず、各科、特に内科系の研修医、レジデント、認定医にもおすすめしたい名著である。

● A5判 178頁 図77 写真125
原色図24 1992 定価5,974円(税込)
〒300

—医学書院 刊(☎ 03-3817-5657)